

KLIS TODAY

No.
24

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

2014 年説明会を終えて

梅宮 朝雪

今年も、7月の授業期間中と8月の夏季休業中に説明会が行われました。7月の学類説明会は学生が授業を受けている様子を見ていただけるような日程ですが、学生のテスト期間にかぶらず高校生の参加しやすい日取りの設定が難問です。

知識情報・図書館学類は他学類や他大学の人に「図書館？ 何を学ぶの？」と訊かれることが多い学類です。これを高校生に理解してもらうため、7月の説明会では大学生活や受験勉強に関する説明に加え、4つのプログラムを実施しました。コント仕立てで行った学類紹介、入学後の様子を想像してもらう授業見学、大学生活4年間の集大成となる卒業研究のゼミ見学、そして学類の先生方に研究内容などを伺ったインタビュー動画放映です。他大学との違いを理解していただけるよう努力しました。

8月の大学説明会では、ドワンゴによるニコニコ生放送で中継が行われたことが最大の特長でした。大教室で行われたパネルディスカッションなどの中継以外に学生によるキャンパス紹介が行われ、遠隔地ゆえに説明会参加を諦めていた方にも会場の雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。また、相談コーナーやキャンパスツアーは情報メディア創成学類と合同で開催しました。

大学説明会やその生中継は、場所や時間が限定されたイベントです。これらで提供できる情報に最小限の制約でアクセスしていただくため、今年からは学生による大学説明会 WEB サイトを発足させました。発展途中ではありますが、「大学選びから入学まで」をサポートするサイトにしたいと考えています。ぜひ

http://klis.tsukuba.ac.jp/klis_students/ にアクセスしてください。



(うめみや・あさゆき 知識情報・図書館学類2年次)



パネルディスカッション

五十嵐 智哉

7月に行われた学類説明会と8月に行われた大学説明会において、パネルディスカッションの企画を担当しました。パネルディスカッションとは、推薦入試、AC入試、前期文系、前期理系のそれぞれの入試形態の学生が、受験勉強の方法や受験期の生活などの自らの入試経験と、アパートや春日宿舎、自宅でのそれぞれの生活について、ひとり15分ほどでパワーポイントを用いてプレゼンする企画です。私自身も、学類説明会では発表者、大学説明会では進行として登壇しました。

ここで、パネルディスカッションの内容を紹介したいと思います。まず入試についてです。最初に入試日程や科目を紹介しました。その後、各入試形態の話をしました。推薦入試では入試を受けるまでの準備など、AC入試では合格した人がどのような発表をしていたかなど、前期入試では受験した科目の筑波大学の問題傾向とその対策などを発表しました。どの入試形態を考えている人にとっても、参考になったと思います。

次に、通学や生活についてです。ここでは、それぞれの生活形態におけるメリットとデメリットについて発表しました。春日宿舎は大学に近く通学に便利だがトイレや調理のたびに部屋を出なければならないなど、アパートは部屋に友人を呼ぶことができるが家事全般を自分でしなければならないなど、自宅通学は家族と離れることがないが通学に時間がかかるなどがあげられました。高校生のみなさんが、入学後、どのような生活形態を選ぶか決める参考になったと思います。

両日とも、多くの方々に参加いただき、さらに大学説明会はニコニコ動画で生中継されたため、より多くの方にご覧いただけたと思います。今年は、時間の関係上、質疑の時間が十分にとれず、学生によるプレゼンテーションのみになってしまいましたが、この企画が、知識情報・図書館学類の受験を考えている高校生、およびその保護者の方にとって、有益なものになっていれば幸いです。

(いがらし・ともや 知識情報・図書館学類1年次)



パネルディスカッションのプレゼンテーション

学類紹介という名の劇

村田 龍太郎

今年は春の進学説明会で学類紹介として劇を行い、とても好評でした。それを受け、夏の学類説明会でも学類紹介劇を行いました。例年は教員が学類について、どのようなことを学ぶところなのかなどを説明していたのですが、今年は学類についての説明を劇に替えて行ったのです。

脚本を担当したのは春の説明会と同じく宇陀先生。劇の時間帯には総合科目の授業があり、ほとんどの1年生がそちらへ行ってしまうため、劇のメンバーは2年生でした。春の進学説明会と同様、先輩のもとへ知識情報・図書館学類がどういうところなのか聴きに後輩が訪れるという設定に加え、クイズ形式のコントが繰り広げられました。

私は見えないところからひそかに音響を担当していたのですが、突然始まる図書館体操のくだりでは見学者の方々が特に良い反応をしてくれていたように思います。先生と学生たちとの面白いコントの後に、学生と先生とでビブリオバトルが行われました。両者ともにクオリティの高いプレゼンを行ったビブリオバトルでした。終わった後は実際に見学者の方々にどちらが読みたくなったかを判定してもらいました。結果は学生の勝利に終わり、劇としてもそこで終了しました。

劇やそれを行う学生たちの様子などで、知識情報・図書館学類の全体的な雰囲気伝えることができた企画だったと思います。アンケートにも面白かった等のコメントがあり、とても良い反応を頂きました。劇の動画はニコニコ動画に「知識情報・図書館学類説明会（7月23日）後半（演劇仕立て）」に投稿されているのでそちらもぜひ。

（むらた・りゅうたろう 知識情報・図書館学類2年次）



図書館体操



ビブリオバトル

スチューデント・トークが伝えること

中村 美咲

今年も、7月の学類説明会、8月の大学説明会の双方でスチューデント・トークを行いました。スチューデント・トークとは、知識情報・図書館学類生が各々の視点から大学生活の様子を伝えるという企画です。通学方法、宿舍の設備や生活、カリキュラム、大学内の自然、附属図書館、大学内外の環境などなど、発表者の個性が光るテーマで行われたプレゼンは、高校生の皆様にも楽しんでいただけたのではないかと思います。私は「食べることが好き」という自身の嗜好を活かし、筑波大学内の食堂と喫茶について事前調査と実地調査（格好つけましたが単なる食堂巡り）を行い、実際にプレゼンしました。

高校生並びに保護者の皆さまが大学受験にあたって気になっていることといえば、学問の内容や就職状況といったことが多いかと思います。事実、大学説明会といえばその大学・学部のカリキュラムや毎年の就職状況についてのお話为中心です。しかし「大学生活」という多種多様な生き方ができる環境のことを事前に少しでも知ることができれば、受験勉強もはかどると思いませんか？このスチューデント・トークが来場された皆様に伝えたかったことはまさにそういった「大学生活の具体的な情報とイメージ」です。

「学生主体の大学説明会」という、知識情報・図書館学類の説明会の特色を最大限に活かした個性的なプレゼンを通して、それぞれの発表者が大学入学から過ごしてきた時間、感じたこと、思っていること、伝えたいことを聴いていただき、少しでも「知識に入ればこんな楽しい生活ができるんだ」と思ってもらえたのなら、このスチューデント・トークという企画は大成功を収めたといえるでしょう。

（なかむら・みさき 知識情報・図書館学類1年次）



スチューデント・トークの会場の様子

「等身大の大学生」を見てもらう～研究室公開～

伊藤 洋平

私は、今回の大学説明会で、研究室公開や資料展示等を担当しました。資料展示は昨年同様、授業シラバスや1年生の情報基礎実習で作成したポスター、2年生の知識情報演習で作成した OPAC を展示しました。

今年は、新たな試みとして研究室公開を行いました。形式は、先生および研究室の先輩にお願いして、その研究室で普段行われているゼミを一般教室で行い、ゼミの模様を自由に参加者に見学してもらうといったものです。狙いは、見学に来る参加者に大学生における「学ぶ」「研究する」とはどういったものなのか、授業とはまた違うゼミという形で見てもらい、その雰囲気を知ってもらいたいということです。

協力していただける先生を探すことに苦労しましたが、2年生の先輩の協力もあって、4つの研究室から了承をいただきました。学生が3年生から所属することになる3つの主専攻から最低1つ以上の研究室を公開することができ、各主専攻ごとのおおまかな研究内容の違いなども紹介できたと思っています。

当日は、高校生だけでなくその保護者の方も一緒に熱心にゼミを見ていらっしゃる姿が目立ちました。大学の研究に、保護者の皆さまにも興味を持っていただくことは非常によいことだと思いました。また、研究室公開に合わせて、見学だけでなく参加できる形式でゼミを開いてくださった先生もあり、とても盛況な企画になったと感じています。

今年は初めての試みとして研究室公開を行いました。いろいろと手応えを感じる企画となったと自分では思います。今回の反省点、よかった点などを活かし、来年もぜひこの企画を行いたいと考えています。

(いとう・ようへい) 知識情報・図書館学類1年次)



古文書を見る



ゼミで発表する

学生と触れ合える場・相談コーナー

堀川 真理恵

私が企画させていただいた相談コーナーでは、入試区分ごとにブースを分け、また保護者の方も参加できるように進路相談用のブースも設けました。当日は、受験生の方が準備してきた質問に、学生が体験した受験の思い出を交えながら一生懸命答えるといった様子が見受けられました。やはり、今同じ苦難の道を通った学生と一対一で話すことで、より具体的に受験のイメージが掴めるのではないのでしょうか。ここで、受けた質問とその答えの一部をご紹介します。

- AC 入試の面接の練習はどのようにすればいいのでしょうか？

答え 自分の場合は、先生に面接練習を頼みました。しかし、面接練習と言っても質問の対策ではなく、面接の雰囲気慣れる練習です。どうしてこの学類を希望するのかを明確に答えられるようにしましょう。

- 推薦入試に向けてやるべきこと何ですか？

答え 推薦入試では小論文に加えて面接が課せられます。予想していなかった質問でも自分の考えを言葉にして相手にしっかり伝えられる練習をしましょう。

- 前期入試の社会科目の選択で迷っています。

答え どの教科でも問題で与えられた語の意味をよく理解し、長文で説明する必要があります。自分の適性をよく考えた上で、高校で学んでいない教科よりも、継続して勉強している教科の方がよいのではないのでしょうか。

- 宿舍生活はどのような感じですか？

答え 共同生活ということで、食事やお風呂などで多少の制限はありますが、友達も周りにたくさんいて、とても楽しいです。また、アパートに住んでいる人よりも電気代があまりかからないのでお得です。

(ほりかわ・まりえ 知識情報・図書館学類1年次)



相談風景



受験参考資料閲覧

知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞

7月29日・30日に平松淳さんと菅原知倫さんに「知識情報演習Ⅰ 優秀作品賞」が贈られました。この演習は図書館情報学の基本を学びながら検索システムであるOPACを作るものです。受賞者のお二人に作品について語ってもらいました。

OPACを作成して

平松 淳

OPACを作成するにあたり私が重視したことは、与えられた要件をすべて満たすことと、簡潔で分かりやすいシステムを作ることでした。検索画面には必要最低限の検索窓だけを用意し、簡易検索と詳細検索は別タブに分割し、利用者の方に用途に応じて利用してもらえるようにしました。また、利用者が蓄積していく履歴を活用したいと考え、ランキング機能を作成しました。

今回の演習で学んだことは、利用者の検索履歴などを活用したサービスを実装することはとても難しいということです。利用者の情報はどのレベルまで蓄積、利用してもよいのかということを考えるよい機会となりました。実習を通して、ひとつのシステムを作り上げたという手応えと、自分の技術がまだまだ未熟であることを強く実感しました。それらの反省を活かし、今後も様々なシステムを見て、作って、技術力を高めると同時にプログラミングを楽しんでいきたいです。



(ひらまつ・まこと 知識情報・図書館学類2年次)

OPAC システムを作り終えて

菅原 知倫

要件を満たすにはどうすればいいか、プログラムの仕組みを考えることはとても楽しかったです。必須要件を満たした後は、さまざまな大学のOPACを参考にし、少しでも実際のOPACに近づけることに制作時間を使い、以下のような機能を作りました。

- 簡易検索と詳細検索の切り替え
- ユーザーが検索条件を柔軟に設定できるように、AND 検索、OR 検索に加え NOT 検索を実装
- 検索結果の並び替え
- 詳細情報の一括表示



詳細情報のうち、著者とシリーズはリンクにCSSやJavaScriptを使い、デザインなどにも苦労しました。この機能づくりやデザインに時間を使い切ったために過去の受賞者のようなこれといった機能を作れなかったことが心残りでしたが、細かい点に目をつぶり、機能の面に限れば実際のOPACにかなり近づけたと思います。

(すがわら・かずのり 知識情報・図書館学類2年次)

インターンシップに挑戦しよう！

－ 知識情報・図書館学類のおすすめ科目 －

白井 哲哉

大学で身につけた専門的知識や技術をベースに、行政機関や事業所で実際の仕事を体験して、仕事への関心や社会への参加意識を高める機会をインターンシップと呼びます。近年、在学中に企業で就業体験をおこなう大学生が増えています。しかし本学類のインターンシップは、正規の授業科目として、学生諸君が「筑波大学」の看板を背負った形で就業体験をおこなうものです。

インターンシップでは、各地の国公立図書館、国公立研究機関、情報系の企業で業務に携わります。主に3年生が履修し、日数は夏休み期間の2週間程度です。平成26年度は48の図書館や事業所等から御協力をいただきました。

実習先が決まると、まず事前あいさつと打ち合わせに赴きます。インターンシップの期間中、受け入れ機関が作成した独自のプログラムにより、図書館であればカウンター及び配架業務をはじめ相互協力、資料整備、児童サービスなどの業務を体験します。情報系の企業の場合、プログラミングやシステム開発に従事します。学生は実習日誌を毎日書きます。受け入れ機関の担当者はそれを読み、激励のことばや仕事上のアドバイスを添えてくれます。

インターンシップを終えた学生たちの声を聞いてみましょう：

「本当にいろいろな仕事を体験させてもらったので、全体の図書館を回すシステムのようなものが見えた」（市立図書館・Rさん）、「実際の図書館業務が行えたということはもちろんのこと、そこで働く人と話ができたことは、私にとって大きなことでした」（県立図書館・Hさん）、「専門的な業務については、大学で学んだことと関連づけられることも多々あった」（国立機関・Yさん）等々、みんな大きな収穫を得たようです。

正規の授業科目である本学類のインターンシップは、社会的責任による緊張感と、大学で学ぶ知識を活かす専門性を伴った就業体験です。しかしそれだけに、他のインターンシップとは違う大きな充実感と、座学の授業では得られない豊かな経験を得ることができます。ぜひ、皆さんもインターンシップに挑戦してみてください。

なお、本学類では（国内の）インターンシップとは別に国際インターンシップも実施しています。国際インターンシップは、アメリカ、カナダ、中国、韓国などの図書館や情報センターにおいて、図書館・情報業務を経験することができます。

（しらい・てつや 知識情報・図書館学類 教授）